

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090100062		
法人名	高田産業有限会社		
事業所名	グループホーム太陽		
所在地	長野市富竹936-1		
自己評価作成日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	平成31年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2090100062-00&ServiceCd=320&Type=saa
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	平成31年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム太陽では、全スタッフで共有する理念を大切な指針として、ご利用者様、ご家族様の幸せの追求を目指しています。
今年は理念を基に人材育成にも配慮し、特に新人育成に関してはリーダーが理念を含めしっかりと伝えるガイドラインを検討し、新人スタッフが不安なく仕事に集中できるような環境づくりに努めました。
事業所として、地域との信頼関係も年々深まり、地域の中で生活していることに感謝し、「当たり前の日常を大切に」今後共地域に愛される事業所づくりに取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「太陽」では、利用者一人ひとりが「元気で楽しく過ごす」ことに重きを置いている。そのために心身機能の維持・回復、若しくは維持・継続に力を入れている。運動としての毎日の散歩は、本人に合う距離を本人ペースで巡りながら、季節を感じ五感刺激の時間、そして機能訓練となっている。無理強いするでもなく、利用者は毎日の日課として出掛けている。
また、毎週実施している「大人の学校メソッド」は昔を思い出しながら授業する。回想法を取り入れ楽しみながら脳活性化となるため利用者には人気である。新たに開所した通所介護利用者との交流の機会も増し「元気で楽しい」ここでの生活がみられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名(ひまわり)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	☐	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	☐	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	☐	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	☐	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	☐	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (11, 12)	☐	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	☐	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	☐	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。 2湯につと以上の場合							
ユニット名(さくら)							
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価票

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の会議による理念の唱和や勉強会等で理念を基にベクトルを合せ、事業所の目的(ご利用者様、ご家族様の幸せ)を皆で確認し合い、理念に基づくサービス提供の実践につなげています。	「家庭的で尊厳ある生活」「心身の力を活かし、安らぎと喜びの場」を理念とし、常に会議やミーティングにおいて、支援場面での具現化について話し合われている。 特に、新規職員の意識付けは徹底しており、全職員が共有、認識のもとに実践に繋げる努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りやお茶のみサロンなど地域行事にも出かけ、地域の皆様や近所の皆様と当たり前のように挨拶をし、お野菜を頂いたり、おやきや焼き芋などのおすそ分けをするなど、益々交流が深まっています。	地域の各行事や「お茶のみサロン」「オレンジカフェ」への参加は、地域の方と行き会える楽しみ事となっている。また、事業所で取り組んでいる「大人の学校メソッド」を地域の「お茶のみサロン」の場でも開催するなど、関係の深まりが感じられる。 地域ボランティアの来訪も多く、定期的、毎月の方も何組もいて、顔なじみとなっている。 新たに事業所のホームページを立ち上げ、地域に発信し、事業所をより知ってもらう取り組みも始まっている。	町会に加入はしているが、活動は免除してもらっている。共に暮らす地域の一員としての隣組の活動参加や、利用者とともにできる地域貢献などの取り組みについての検討は期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	回想法を使った脳トレ「大人の学校」の授業をお茶のみサロンにて実施するなど、認知症やグループホームについての発信する機会もあり、また、運営推進会議、地域行事への参加等、様々な形で伝えていくよう心掛けています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活用し、幼稚園との交流行事や避難訓練を見ていただく場面やインシデント、アクシデント報告、身体拘束、虐待に対する有無の報告等も運営推進会議で実施し、地域、ご家族、市町村等様々な方のご意見をサービス向上に活かし、地域と一体となった取り組みを続けています。	事業所の取り組みや現状報告とともに、委員の方々から意見や情報を集める機会としている。 「防災訓練」「幼稚園交流」は一緒に見てもらい、感想や助言を得ている。その際は消防署や園の担当者に推進会議に参加してもらうなど、内容の充実も図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	疑問点、問題点などがあれば、市の担当者との連絡を取り合い、指導を仰ぎ、また、地域包括支援センターとの連携により、地域の高齢者、要介護者状況等の情報交換を行うなどの協力関係を築いています。	市担当者とは事業所や利用者の課題、問題点等の解決に向けての連携は図られている。また、独居高齢者、生活弱者の方の市のニーズを共に考えるなど、事業所の柔軟な対応と協働関係が視られる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠を含め、「身体拘束」に対し、正しく理解する機会を設け、具体的な例を挙げながら、自分たちのケアが身体拘束につながらないかなどを含めて勉強会を実施しています。また、身体拘束等適正化委員会による各ユニットの身体拘束の有無や危険等についても検討しています。	前回の外部評価の目標達成計画を基に、重点的に取り組んでいる。「身体拘束等適正化委員会」を設置し、身体拘束廃止と利用者の尊厳、主体性に対する指針を明らかにするとともに、年2回の定期的な研修や、新規採用職員教育の徹底、また、会議やミーティングの中で拘束にあたっていないかの話し合いがなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議等含め、法的理解を学び、スタッフ間でもお互いの行動、言動に気をつけ目を向け合い、ご利用者様がどのような状態、変化があっても虐待の防止を徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者、介護スタッフ(リーダー)は研修を受け、理解しているスタッフも複数います。入居するご利用者様には権利擁護支援を受けている方もおり、実情と制度の理解につながっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に利用料金等の説明を行い、ご家族の方の不安や疑問点について話し合いをし、同意、理解していただいています。また、法改正による料金改定時等、その都度ご家族様へ説明文を添付し、理解、納得していただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書にもホーム苦情担当、公的苦情場所を記載し、意見をどこへ、誰に伝えることができるかを明確にし、また、運営推進会議への参加、太陽通信、意見投書箱等により、伝えやすい雰囲気作りを心掛けています。	苦情や不満については、意見箱の設置や通信で知らせるなど、述べやすい環境を整えている。出された事項には迅速に対応し、改善・対応策を報告している。また、意見や要望については、利用者・家族とのコミュニケーションに努め、ミーティングで共有し、本人や業務に反映させている。	面会になかなか来られない家族や「お任せします」と言う親族の方の声をどう把握していくかを課題としており、その方法の検討が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング、勉強会等により、スタッフが意見提案できる雰囲気作りを心掛け、有益な意見は積極的にサービス向上に反映させています。	毎日のミーティング、毎月の職員会議、2ヶ月ごとのサービス向上運営会議において、職員の意見や提案を聞き運営に活かしている。また、管理者との個別面談も年何回も実施する等、「風通しの良い職場である」との職員の声が聴かれる。外部研修、内部研修の機会も多く、職員の資質向上、働く意欲となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は定期的に全スタッフとの面談を行い、各自の適性や個性を理解することに努めるとともに、会社のビジョンを伝え、各自と共に目標を掲げ、意欲向上につなげております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理職、リーダー、新人とそれぞれに応じた研修を受ける機会があり、特に新規スタッフを育てる側の意識改革、ガイドラインと研修体制を作り、安心して働くことのできる環境づくりに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	勉強会に外部講師の講義を取り入れたり、病院との連携、グループホーム同士の連携の中で、勉強会や、交流会を開き、他事業所との意見交換や知識交換を行ない、資質の向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	アセスメント、ケアプランを参考に、ご利用者様と積極的にコミュニケーションを図り、共に生活をしていく中で不安や心配に耳を傾け、ご利用者様の安心と信頼関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	申し込み時、面談時等、ご家族の不安等の気持ちを深く理解するよう努め、不安や心配に感じていることを解消する方法を過去の事例や現在のホームの状況を伝えながら、共に考え、受け止め、改善できるよう、前向きな話し合いをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談、申し込み、面談等を行う際、できるだけ細かい情報を頂き、そのご利用者様に何が必要なのか、どんな心配事や悩みを持っているのかなどを確認し、その時々状況に応じて対応させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	人生の先輩であるご利用者様の意思や尊厳を大切に、ご利用者様の性格、病状、個性を理解し、職員の一方的な思いで行なう指示や行動を控え、より良い関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族面会時、スタッフはご利用者様の生活状況などを伝え、ご家族様とのコミュニケーションを大切にしています。また、病院との連携による身体状況等の情報を共有し、ご家族、ご本人の考え、気持ちを大切に信頼関係の構築に取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	善光寺や権堂周辺、中野バラ祭りや地域の蜚探しに出かけるなど、その方の思い出の場所や昔を思い出す地域交流へ参加し、馴染みの場所を大切にしています。また、ホームに来てくださる友人、知人も多く、今後も関係が途切れない支援に取り組めます。	本人の声から行きたい場所や会いたい人についての把握を心掛け、ミーティングで共有し、個別に沿えることについては協力している。個別対応が難しい場合は皆で懐かしい場へ出掛けるなど、その回数は多く利用者の楽しみ、満足となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の相性、性格等に配慮し、日常生活の中で、役割、レクリエーションや団らん等を行ないながら、円満な人間関係を築いていけるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に移られたご利用者様、ご家族様とは面会させていただいたり、ご連絡を取らせていただいています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様のADL状況を理解し、安心できる空間、時間を大切にしています。また、日常の中で行事等含め、思いや希望を聞き、日々の役割、散歩、出かける場所等、様々な形でその人の思いを叶えることのできるよう努めています。	理念である「心身の力を活かし、安らぎと喜びの場」となるように、本人の思いや暮らし方についての把握を第一としている。 そして、一人ひとりの声を職員で共有し、本人が能力を発揮しながら、自信と安心の生活が営めるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者、ご家族、関係機関(地域包括支援センターや病院、居宅ケアマネや以前使っているサービス事業所等)からの情報や話し合いを行い、それらの情報をスタッフ全員で情報共有し、それまでの暮らしや思いの把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎月の会議では、ご利用者様毎にモニタリングを実施し、ご利用者様のできることや心身状態の把握、喜びある日常を過ごせるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご家族や病院等必要な情報や意見を基にケアプランを作成し、毎月の会議時、スタッフ皆でモニタリングを行い、現状に即したケアプランの作成、実践を行なっています。	計画の作成にあたっては、介護のためのアセスメントではなく、本人の生活を支えるためのアセスメントをもとに立てており、ここでの生活が満足となる計画へと、今の心身機能の維持継続に力を入れた内容となっている。 そして、定期的なカンファレンスとモニタリングで、本人に合った計画となるように心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌、ケース記録等により、日々の様子を記録し情報の共有を行っています。また、変化のあった事、気になる事は申し送り事項として確認しあい、重要なことは毎月の会議で話し合い、モニタリングを行い介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の状況により、ホームで支援できることはできるだけやらせていただき、また、独居高齢者、生活保護者等に対する柔軟な対応を行なうことも社会貢献の一環として捉えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日常生活の中での交流(あいさつや会話)、お茶のみサロン等に呼んでいただき、また、地域のボランティアの皆さんと1日を過ごしたりと、地域の温かさを感じることもできる生活に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族様の承諾の下、かかりつけ医との24時間対応、往診等協力体制を築き、ご利用者様、ご家族様の安心につながっていると感じます。また、専門医等状況に応じて適切な医療を受けることのできる体制に整えています。	医療連携病院による月2回の往診と月2回の訪問看護の受け入れ、往診時は「往診依頼書」にて本人の状態を知らせている。利用者の状況により、家族・連携病院・事業所と話し合っている。本人をよく知っている医師との話し合いで、家族の安心となっている。また、職員も利用者の様子を伝え、相談することで、安心して日々の介護が可能となり、毎日の体温、血圧、顔色等をチェックして、体調変化の早期発見に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週、医師あるいは看護師の訪問があり、介護スタッフはご利用者様の体調変化や気づいた事、医療についての相談ができる関係を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各利用者様のかかりつけの病院との信頼関係を築き、退院前の本人の状況から退院後の対応までを相談できる体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所であることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時には、重度化、見取りに対しても説明を行います。また、ご利用者様の心身状況の変化に伴うご家族様との話し合いの場を設け、連携医師と話し合い、今後の方針を相談するなどの対応をしています。そして、ご家族様の思いや今後の方針は会議時、スタッフ全員で共有し、ターミナルケアに取り組んでいます。	健康な利用者が多く(一人入院中)、ここ2年間は、看取りはしていない。入所時に事業所のターミナル指針に基づき説明を行い、本人・家族の意向を確認し、心身の状況の変化に伴っては、再度、家族、医師、事業所との話し合いの場を設け、今後の方針を相談、説明する体制が整っている。	医療連携体制に安堵することなく、利用者の健康管理と緊急時の対応に関して、更なる周知の機会での理解の深まりも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	様々な非常事態に備えて、連絡方法、避難方法等のマニュアルを整え、訓練、研修を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜の避難訓練等を含めて研修を行い、全スタッフが迅速に災害に対応できるようにしています。運営推進会議を基に、地域の消防団との連携を強化しています。	災害に関してのマニュアルが解り易く作成され、昼夜行われる避難訓練等には、家族、運営推進委員の方々が参加し、意見や助言を得ている。 区長からは、来年度は常会長にも参加の声を掛けたいとの声が出て、今後は地域との協力体制も更に期待できると思われる。	各種災害における、想定外を想定内とする取り組みは利用者の安全確保を第一とする入所施設におけるリスク管理の第一歩と理解したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ホーム理念にもある「尊厳ある生活環境」や一人ひとりの尊厳を大切にプライバシー保護に努めております。また、ご利用者に対する言葉かけは、日頃から、礼節をわきまえた言葉と温かみのある丁寧な言葉をスタッフ一同意識しております。	ゆったりと穏やかに生活している事は、利用者の様子、姿から確認することは容易であり、日頃の会議、学習会等にて職員が理解を深め、統一した意識のもとにサービスが提供されているものと思われる。	利用契約の締結の際に、入浴・排泄時の異性介助や同姓介助についての説明や、同意を得る取り組みも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	テレビや雑誌、スタッフとの談話などから、出かけたい場所や食べたい食事、散歩やお手伝い等、日々の中でその方の思いや自己決定の場面を大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	事業所、スタッフ間で、優先すべきは「ご利用者の気持ちや生活」であることを理解し、業務優先ではなく、その人らしさ、一人ひとりのペースを大切に支援できるよう取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の洗顔、髭剃り、整髪に気を配り、外出時等も服装、お化粧など、ご利用者様が着ていきたい服等を決めるなど、その人らしさを大切に取り組んでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニュー決めから食材を調理し、盛り付け、片付けと一連の食事作りをご利用者様と行います。 また、食事前の口腔体操は誤嚥防止とともに食欲増進につながり、食事を楽しむ取り組みにつながる場面となっています。	朝食のみ配食サービスを利用しているが、調理、盛り付け、片付けと食事作りは利用者で行っており、それぞれのペースで食事をし、職員との会話を楽しみながら料理を楽しんでいる。 また、外出した際には外食を楽しむ機会もある。 食前の口腔体操、食後の口腔ケアで、誤嚥防止、清潔保持にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量はチェック表により把握できるようにし、個々の健康状態に応じて、水分摂取量、食事量、栄養補助食などバランスや健康を確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアは実施し、介助が必要な方には介助を行い、自立されている方にも見守り、確認を行なっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレでの排泄を大切にし、ご利用者様一人ひとりの排泄パターンをチェック表等を参考にして把握し、トイレでの排泄、自立した排泄支援に努めています。	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェック表を参考に把握し、トイレでの排泄、自立した排泄支援に取り組み、トイレはいつも清潔に保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	運動や食事、水分での予防、腹部マッサージ等の工夫を行い、場合によっては医師との相談により、予防、対応に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	午前、午後などの時間帯は決めず、「お昼寝をしたいから午前に」、「汗をかいたから」等ご利用者様の希望や状況に応じて入浴を楽しんでいただけるよう努めています。	本人の希望や状況に応じた入浴支援を行い、浴室は清潔に整理・整頓され、安全に安心して入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご利用者様の状況、その日の体調や希望により必要な休息をとっていただき、不安がある時は、ゆっくりと話を聞いたり、お茶を飲んだりして安心できる環境を整え、ゆっくりと安眠できるよう取り組んでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬による目的を理解し、副作用、変化等に留意しながら、スタッフ一人ひとりが責任を持ちながらも、ダブルチェックできる体制を作り、服薬支援を行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節の行事や毎日の日課の中での役割（お掃除、洗濯、調理やお茶準備等）、散歩などメリハリのある生活を行ないながらゆっくり話を聞くなど、小さな喜びを大切に取り組んでいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常の中で散歩、ドライブ、畑、買物、日向ぼっこなどは習慣となり、ご利用者様のあたりまえの日常となっております。また、夜桜見学や地域のホタル観察、神社の盆踊りなど、昔を思い出すようなお出かけも大切にしています。	戸外への散歩は利用者の習慣となり、身体機能の維持、気分転換となっている。お花見、善光寺参り、ホタル観察、菊まつり等、季節を感じる外出も多数企画され、地域交流の場にも多く参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数名のご利用者は日頃から所持しています。また、スーパーへのお買い物やコンビニ移動販売などでは、ご自身でお買い物を楽しまし、お金の受け渡しまで行っていたいでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙などが届くとご本人と一緒に読み上げ、お部屋に大切に保管します。ご家族様にお手紙を出すご利用者様もあり、引き続き大切な人とのつながりを大切にしていこう努めます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は常に清潔を意識し、定期的にリーダー数人による「太陽を明るくしよう計画」により、整理整頓と清潔感、あるいは季節の飾りつけやお出かけ時の写真掲示など、様々な形で居心地の良い空間づくりにつながっていると思います。	広いフロアをソファで仕切ることで、落ち着ける空間となるよう模様替えを行い、整理・整頓され、畳コーナーもあり、清潔で居心地の良い場所となっている。ソファに座り利用者同士でにこやかに会話をする姿も見られる。「太陽を明るくしよう計画」により清潔、より明るい環境への整備が進んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では小上がり、ソファなどがあり、各々の居場所でくつろぐ場面が見られ、また、玄関先にも椅子を設置し、外が気になる方、1人になりたい方等にも配慮し活用されています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、自宅で使用していた家具や思い出の品々を置いていただき、また、毎年の誕生会や敬老会の記念品など、その人らしい安心できる空間づくりに配慮しています。	居室はそれぞれの利用者の居心地の良い様に自宅で使用していた家具や思い出の物を置き、安心できる空間となっている。収納ケース等には中身を大きく記載するなど、本人が混乱しないような工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用お客様の「できること」と「危険なこと」を理解し、ご利用お客様の様子観察をしっかり行なうことで安全と自立のバランスを保つよう努めています。		